

童

2018年10月2日

この夏の猛暑が記憶から遙かに遠ざかるように、9月はたっぷりの雨が続ききました。気持ちいい雨と言うよりも、恐ろしい雨風という感じでした。ほとんどの人が、直感的に地球の天候がおかしくなってきたと感じていると思います。台風も、何十年ぶりの大型だとか過去にない程とかいつも言っており、それだけ外国のハリケーンに近い事が日本でも普通に起こるようになってきたのでしょうか。これらは全て、人間のエネルギー消費による温暖化が原因なのに、相変わらず電気ガスなどを、全く節約することなく震災後も、普通に消費している浅ましさに、自分を含めて無力感を感じますが、「節約とケチは違う」と言い聞かせて、一人一人が出来る事をしていかねばと痛感しています。

リンゴの収穫や稲刈りが進み、大地の粟は早くも悉く子どもたちが拾い集め、まさに、大地の里山は秋真っ盛りです。そんな中、相変わらず子どもたちは、カナヘビをつかまえ、クワガタを見つけては喜んでます。この夏も秋も混じり合った里山の世界は、にじみ絵そのものの世界です。皆、ぼんやりとして季節の変わり目をはっきり感じる事無く、風景や匂い、食べ物などの全ての感覚を通して、季節を体感していくのでしょうか。テレビやラジオで、季節の味覚や映像を流して、季節の移ろいをこれでもかと押しつけてくるよりも、子どもたちは、里山の暮らしの中で、意図的ではなく、行きつ戻りつしながらの時を感じていっているのでしょうか。



「今度いつ流しそうめんするの？」などの質問が時々あります。面白いですね。たぶん、寒さの中でも、子どもたちはきっと喜ぶでしょうね。大人のお仕着せではなく、子どもが体感しながら、理屈抜きで、感じていける暮らし、それは、自然が最高の教師となることでしょう。

秋の畑、田んぼ、雑木林は、四季を通じて一番、視覚的にも味覚的にも変化が顕著に感じ取れるものです。たっぷりと雑木林や外で遊びまくって過ごしたいと思います。これから一雨毎に季節が変化するので、雨でも積極的に過ごします。災害のない雨が一番ですが。

【流れ】

長男の高校の同級生が、イタリア留学、そして近年フランスでのバイオダイナミック農法などの体験により、最近日本に帰国して、自然農業をやりながら、民泊やゲストハウスを始めると言うことで、長男は大喜び。若い世代に確実に自然農法に生きる者が多いことを痛感する。そこで、長野市内にある彼の一人暮らしの祖母の古民家（長男と青ちゃん達だけが、凄いい家だと褒めてくれ、他の友だちは古いだけじゃんと興味ないらしい）の片付けと再生を応援することにした。手始めに、4トントラック5杯分の近代的なごみやガラクタを捨て去り、3トンの砂利を入れて潰してしまった池の再生（砂利出し）と井戸の再生。大地のバックホーや揚水機など大地最新鋭機械を駆使して、良い感じで進んできました。

バックホーを運び、友人から軽トラックダンプを借りて、さて砂利を救い出す作業開始で、軽トラダンプを移動する時、エンジンがかからない。たった今、大地から乗ってきたばかりなのに。運悪く、セルモーターが壊れてしまったのです。これじゃ全く仕事にならないと皆思っている中、押しかけでエンジンをかけて、終日かけたまま作業しようと考え、これが成功して、結局4時まで昼抜きで作業完了！！（この間、2度エンストして押しかけ成功）

翌日、自分の軽トラでガソリンスタンドで燃料補給。終了後、エンジンがかからない。たったいま、大地から来たばかりなのに。プースターケーブルを借りて無事エンジン始動。（ちょっと嫌な流れを感じた）

また、その翌日。バインダーで例の田んぼの稲刈り開始。予想以上にぬかるんでいながら、何とか30分ぐらい順調に刈り取り。そして結局泥にはまる。それでも何とか右往左往しながら刈り取る中、紐が結束しなくなり、修理しても無理。結局、機械屋に持ち込んだところ、部品が大きく破損して修理不可（まずい、壊れる流れが来ている！！）

代替えのバインダーを翌日用意してもらうことになって安心。

さてその翌日、整備済みのバインダーを朝受け取り、意気揚々と稲刈り開始。早々に泥に埋まり引き出し、更に埋まり引き出し、更に、紐も結束しなく、チェーンも外れて、結局、2時間、泥との格闘で、久しぶりに実も心も機械もボロボロになり、寝込む。おまけに右肩の痛みも最高潮に達して、完全に悪い流れ。更に追い打ちを兼ねるように、妻とイライラの中、大げんか。もう、稲作はやらない、米なんか作りたくない、今年の稲刈りはもう諦めよう、誰かに刈ってもらおうなどと自暴自棄直前！！（完全に、悪い流れの中で、雨降りの稲刈り当日を迎えた）

悪い流れでは、必ず底値、落ちるところまで落ちる、何をやっても駄目、という段階は、どこかで自覚できる。この場合、完全に底値まで行かないと回復する流れにはならないことを自覚してきた。もうなるようにしかならない、今までももう無理だと放棄する臨界点まで来た時に、奇跡的にV字回復していい流れになってきた人生。

流れを、完全に自分で悪い方に流している時は、必ず自分の中に焦りがある。時間的にも肉体的にも精神的にも自分を追い詰めている時に、ちょっと歯車、タイミングが狂うと流れが変わってしまう。更に、流れが底値の時は、不思議に悪天候の時が多いような気がする。「必ず朝が来る、晴れ間は必ず訪れる、トンネルには出口がある」という冷静な祈りがあった時に流れが変わったことも多い。

稲刈り当日の朝、妻には一人で田んぼへ稲刈りに行ってもらい、ガンナーで雨音を聞きながら、ご飯、味噌汁、机移動などの準備をし、ひたすら結束用の紐を切った。雨音が冷静に客観的に自分を修めてくれる中、「今が底値、これ以上悪くはならないだろう」と自分に向き合い、この単調な紐切りを淡々とこなす中、いつの間にか紐の数は、当初の400本から、4000本という莫大な本数になっていた。「これだけ機械が壊れる」「こんなぬかるみの田んぼは初めて」「雨や台風が続く」「おまけに肩も最悪」・・・「これは、最悪ではなくて、別のことをやれという意味」「今年は自然農法だし」「子ども祭りのミッションは、機械もエネルギーも使わない」「これは、全て手作業でやれという思し召し」・・・それが瞑想のように、4000本の紐の数になったのか。そして腹をくくり、登山のように、皆でひたすら一步一步やれば、あの広大な田んぼ、自然（稲刈り）をやり遂げることができると確信した。

こう決断した段階で、矢のようにカボチャを切り、蒸かし、リンゴやブドウを準備して、長男や長男の友人に連絡して（この子達は、自然農法だけに手刈りにこだわっている）応援要請。何よりも、大地の子どもたち、OB、そして強力な保護者の皆さんに甘えよう、応援をお願いしようと腹をくくった。

稲刈り、自分では何か後ろめたく、そして罰が悪くて、皆が真剣に向き合っている田んぼにはほとんど入れず、外からの手配や段取りに終始専念していた。確実に刈り入れて行く様子、減っていく稲、泥だらけの顔顔顔、誰一人泥に埋まっても泣かないで喜んでる笑顔、感謝と幸せで終始心の涙は止まらなかった。本当に本当にありがとう感謝です！！